

農地強奪絶対阻止、空港廃港へ

三里塚通信

No. 2819

2022・11・27

反戦・全学連
三里塚現地行動隊

解放派

千葉地裁による授権決定を弾劾し、現地集中体制を強化しよう

十一月二十四日、千葉地裁民事第四部・中村さとみ裁判官は、反対同盟に授権決定を通知してきた。これは、三里塚闘争を闘う人びとと、戦争に反対する全ての人民に対する宣戦布告だ。日帝国家権力―岸田連合政府と空港会社は全体重をかけて三里塚闘争破壊の攻撃に打って出てきたのだ。これによって、市東さん宅前の天神峰農地全部、中庭に建つ生活と営農に必要な作業場・ビニールハウス・トイレなど一切、反対同盟の看板・やぐら、南台農地の一部まですべてを奪おうとしている。この攻撃を絶対に許してはならない。

これをうけて、反対同盟と支援連、決戦本部に結集する仲間が即座に二十四時間の天神峰集中体制に入った。いよいよ決戦に突入した。三里塚闘争五十七年の歴史は、流血と弾圧を強いられながらも不屈の反撃戦によって敵の狙いをことごとく打ち砕いてきた。今こそ、闘いなかばでたおれていった多くの反対同盟、三里塚闘争に決起してきた人びとの闘いを引き継ぎ、農地強奪実力阻止、空港廃港決戦に勝利しよう。

反対同盟・市東孝雄さんは、「強制執行やるなら受ける」と空港会社の攻撃を一喝した。「代執行、来るなら来い」と代執行と真正面から対決した市東東市さんの遺志を引き継ぎ、天神峰の農地を守りぬくことを宣言している。市東さんの檄に応え、市東さんとともに農地を死守し、三里塚闘争の勝利をかちとろう。一九七一年強制代執行に身体を張って闘った大木よねさんの闘魂と機動隊を打倒した東峰十字路戦闘の地平を引き継いで、機動隊との実力攻防に勝利しよう。創意工夫の闘いで敵の目論見を打ち砕こう。

一一・二八耕作権裁判に結集し、十二・一一現地闘争に勝利しよう

千葉地裁は十六年間闘われてきた耕作権裁判の終結を急いでいる。全く許しがたい審理で空港会社を擁護し、証拠隠しに加担してきた千葉地裁を許してはならない。二十八日の耕作権裁判に結集し、千葉地裁を包囲するデモを闘おう。授権決定を出した千葉地裁に徹底弾劾の声を叩きつけよう。

空港会社はB滑走路の北側延伸のための準備工事を着工し、来年には第三滑走路建設にむけた準備工事を強行しようとしている。成田空港を米軍と自衛隊の兵站・出撃拠点にするための攻撃を許してはならない。同時にかげられている市東さんの農地強奪は戦時徴発そのものだ。農地死守決戦の大爆発で、空港機能強化もろとも粉碎しよう。

反対同盟は十二月十一日の現地闘争を呼びかけている。十一月と十二月の連続闘争で強制執行を打ち破ろう。空港廃港の一大決戦に勝利し、改憲・戦争に突撃する岸田連合政府を打倒しよう。三里塚に勝って戦争を止めよう。